

会 告

1. 会費納入

本研究会では、年会費を前納して頂いております。平成 15 年会費につきまして、同封の振込用紙にてお振り込み頂きますようお願い申し上げます。

2. 18 回根研究集会

第 18 回根研究集会を大阪市立大学学術交流センターで 2003 年 6 月 14 日（土）に開催します。詳細は次号をご覧ください。

3. 原稿募集

「根の研究」では、様々なジャンルの原稿を募集しています。会員の皆様はもとより、会員以外の方からのご寄稿も歓迎いたします。「総説」、「原著論文」、「短報」、「技術ノート」やご自身の研究を中心に解説したミニレビュー、学会参加報告や研究室紹介、書評などを受け付けます。これまでにない新しいジャンルにも積極的に対応いたしますので、奮ってご寄稿ください。

原稿送り先

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学大学院生命農学研究科 循環資源学講座内

「根の研究」編集委員長 山内 章

Tel & Fax 052-789-4022 E-mail: ayama@agr.nagoya-u.ac.jp

4. 会員が公表した論文を自己紹介するコーナー

今号から、会員が最近公表した根ならびにその周辺領域に関する成果（著書、訳書、総説、原著論文、短報、研究ノート等なんでも OK）を「自己紹介」して頂くコーナーを設けています。また、会員が最近読んで興味を持った論文や書籍類の情報も紹介していただいても結構です。投稿は、編集委員長宛にメールでお願いします。なお、ご自身の論文を紹介していただく場合には、もし別刷り請求が可能であればその旨を請求先と併せて記載して下さい。

5. 研究会入会ご希望の方へ

新規に入会をご希望される方は、事務局宛に入会希望の旨を E-mail にてお知らせください。必要書類等をお送りします。

お詫びと訂正

「根の研究」第 11 巻 3 号において誤りがありました。ここに訂正してお詫びいたします。

P.113

誤 図 5. 土壤微生物培養中のアンモニア（△）と硝酸（○）の濃度の変化。実線は原生動物を入れた場合、破線は原生動物を入れなかった場合。試料から得られた土壤微生物群を培養した。（Griffiths, 1989 の結果に基づいた Griffiths, 1994 の図を書き直した）。

正 図 5. 微生物から分泌される色素濃度の変化。色素の量を *Pseudomonas fluorescens* 細胞 10^9 乗あたりの濃度として計算。10 倍希釈された King's B 培地に、*Acanthamoeba* を単培養した培地をフィルター濾過し、10%になるように添加した（斜線）ものと、対照区として King's B 培地を 10%になるように添加した（白）もの。（Levtat et al., 1992 を改変）。

誤 図 6. 微生物から分泌される色素濃度の変化。色素の量を *Pseudomonas fluorescens* 細胞 10^9 乗あたりの濃度として計算。10 倍希釈された King's B 培地に、*Acanthamoeba* を単培養した培地をフィルター濾過し、10%になるように添加した（斜線）ものと、対照区として King's B 培地を 10%になるように添加した（白）もの。（Levtat et al., 1992 を改変）。

正 図 6. 土壤微生物培養中のアンモニア（△）と硝酸（○）の濃度の変化。実線は原生動物を入れた場合、破線は原生動物を入れなかった場合。試料から得られた土壤微生物群を培養した。（Griffiths, 1989 の結果に基づいた Griffiths, 1994 の図を書き直した）。